

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和6年1月号



令和6年の新春を迎えて

公益社団法人千葉県園芸協会
理事長 江波戸 一治

新年明けましておめでとうございます。
皆様には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
また、会員の皆様には、日頃、当協会の業務運営に格別な御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
当協会が、公益社団法人の認可を受け、新たな組織体制で広範にわたる農業振興事業を開始してから、昨年で節目の10年が経過しました。この間、農業の内側では、担い手の高齢化や後継者不足が進行する一方で、房総半島台風の襲来や新型コロナウイルスの蔓延、資材やエネルギー価格の高騰といった外的要因も重なり、本県農業の生産力は低下し、農業経営は厳しい状況に置かれています。
しかしながら、昨年を振り返ると、3年間にも及ぶ新型コロナウイルスに係る行動制限が解除され、祭りやインバウンドの復活など地域には賑わいが戻り、農業においても生産者や関係者の集まる機会が増え、対面による販売促進活動も再開されるなど、反転攻勢に向けた明るい兆しも見受けられました。
公益社団法人千葉県園芸協会として11年目を迎える本年は、「ひと昔」と言われる過去10年の状況を踏まえ、本県農業を力強く未来につなぐ

ための取組を、生産者、JA、行政機関、関係団体の皆様と一丸となって進めてまいります。

園芸振興に関しては、さつまいも、ねぎ、トマト、にんじんの強化4品目を中心に、生産の省力化や流通の合理化に寄与する新たな出荷規格の導入や、本県の立地優位性を生かした鮮度を重視した販売方式の試行など、生産力と販売力を強化するための取組を進めます。

また、農地中間管理事業では、令和5・6年度の2か年間で市町村が策定する「地域計画」に基づき、県、市町村、農業委員会と当協会が一体となって担い手への農地の集積・集約化を促進します。

そのほか、種苗生産事業や野菜価格補償事業等の生産対策、新規就農支援事業や6次産業化推進事業等の担い手対策にも責任をもって取り組み、農業者の経営安定と所得向上に力を注いでまいります。

関係者の皆様には、当協会のこうした取組に対し、本年もより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

令和6年が災害のない穏やかな年になり、生産者や農業関係者の笑顔がたくさん見られる年になることを御祈念申し上げ、年頭の御挨拶とさせていただきます。

1×2×3は6! サポートセンターの6次産業化支援

公益社団法人千葉県園芸協会
千葉県農山漁村発イノベーションサポートセンター
統括企画推進員 富樫 俊彦

「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利用促進に関する法律」(六次産業化・地産地消法)が公布されて13年が経過しました。本法に基づく支援策等を活用するなどして様々な6次産業化の取組が行われています。

1. 6次産業に取り組むには

6次産業化とは、「一次産業としての農林漁業と、二次産業としての製造業、三次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取組」と法律の前文に記載されています。

自らの農林水産物を加工したり、新たな方法で販売することで、より高い価格設定が可能となることから収入の増加が期待できる反面、加工に係る設備投資や人件費、販路開拓や在庫管理など経費や手間がかかります。所得向上につなげるためには、万全な準備と計画的な取組が大切になります。

千葉県園芸協会は、平成26年度からサポートセンターの運營業務を、千葉県から受託しています。企画推進員を配置した相談窓口を設置し、プランナーとして登録した専門家を農林事業者に派遣し、6次産業化等の取組支援を行ってきました。

2. 総合化事業計画の認定

総合化事業計画は、法律に規定された計画で、国の認定を受けることで、農地転用手続きの簡素化などの特例や国県の補助事業等の活用が可能となります。令和5年10月末現在で全国の認定件数は、2,634件、千葉県は59件になります。認定計画の概要は、農林水産省や千葉県が公開しています。当協会のホームページからも御覧いただけます。

令和になってこの5年の千葉県の認定数は13件で、内訳は、野菜に関するものが7件、畜産(養蜂含む)が3件、作物が2件、果樹が1件です。いちごの加工・販売の取組と、醸造の取組が複数認定されたところが、特徴的だと思われます。認定された13件のうち11件にプランナーを派遣して、計画作成、経営管理、マーケティング、衛生管理等の支援を行いました。



蜂蜜酒(ミード)で認定された(株)蜂蜜工房

3. 経営改善戦略の作成・実行支援

法律が施行されて10年が経過した令和2年度に国のサポート事業が大きく変わりました。プランナーは、支援対象者に選定された農林漁業者等に、経営改善戦略の作成・実行支援のために派遣されることとなりました。経営改善戦略は、付加価値額(経常利益+人件費+減価償却費)を増加させる方策で、令和5年度は、支援対象者に選定された10事業者(11月時点)に、プランナー派遣等の支援を行っています。

また、令和4年度からは、農林水産物の加工や販売の取組に加え、農山漁村の様々な地域資源を活用した取組にも支援ができるようになりました。それに伴って、サポートセンターの名称も「農山漁村発イノベーションサポートセンター(6次産業化サポートセンター)」となりました。

6次産業化等の相談がありましたら、下記2次元コードまたはURLから、当サポートセンターのページへアクセスされ、お問い合わせください。



URL: <http://chiba-engei.or.jp/supportcenter.html>

頑張る産地



在来枝豆「鴨川七里®」の安定した市場出荷に向けた取組 ～持続的な生産・出荷を目指して～

千葉県安房農業事務所改良普及課
鴨川グループ 普及指導員 鵜澤 瑞貴

鴨川市では、地域特産品として在来枝豆「鴨川七里®」が栽培されています。これまでに実施した緑肥導入試験や、集落営農組織と福祉作業所との農福連携による産地振興について御紹介します。

1. はじめに

安房地域では、鴨川市を中心に晩生枝豆「鴨川七里®」が7月から10月にかけて栽培・収穫され、その香りや食味の良さから市場や消費者から高い評価を受けています。

平成21年に生産者組織「鴨川七里®を育てる会」が発足し、現在では個人会員30人、団体会員10団体、栽培面積は約4haとなりました。また、集落営農組織を中心に実施されている「えだまめオーナー制度※1」の取組も人気を博しており、年々リピーターが増加しています。

※1：鴨川七里®の収穫期に、1区画約15m²で栽培した枝豆を¥4,000で引き渡し、収穫体験をする取組

2. 緑肥を活用した地力・収量向上に向けた取組

鴨川七里®栽培ほ場では、長年に渡る同一ほ場での連作や画一的な化学肥料の散布が問題となっており、地力の低下に伴う収量の減少がみられました。

そこで、鴨川七里®収穫後の11月からでも播種できる緑肥「ヘアリーベッチ」、「クリムソクローバー」の秋まき品種を選択し、栽培試験を実施しました。

栽培試験の結果、ヘアリーベッチ試験区の収量が対照区と比較して約1.2倍となる結果が得られました。また、緑肥がほ場全体を覆うため除草作業が不要になる等、副次的な効果も確認出来ました。

生産者からは、「播種も容易であり、無施肥で収穫を迎えられたので今後も緑肥を活用した栽培を行いたい」等の前向きな意見が聞かれました。



すき込み前(4月下旬)のヘアリーベッチ(左)とクリムソクローバー(右)

3. 農福連携の取組

令和4年度から、「お試しノウフク」を活用した集落営農組織と福祉作業所との農福連携マッチング支援を行いました。鴨川七里®の莢選別作業を福祉作業所へ作業委託する取り組みで、農業事務所では福祉作業所の方が出荷規格を一目で分かるように写真や平仮名を使った福祉作業所用の出荷規格表をJA安房と共同で作成しました。

農福連携を行った集落営農組織からは、「これまで選別作業に多くの時間が掛かり市場出荷はほとんど出来ていなかったが今年は例年以上に出荷できた。」等の感想が聞かれ、その年の市場出荷量は前年度比で6.8倍の出荷となりました。福祉作業所側からも好意的な意見が多く、令和5年度からは本契約で農福連携が行われています。

また、本取組について、令和5年7月に鴨川市生産者と安房管内の福祉事業者が一堂に会した農福連携現地セミナーを開催しました。セミナーでは、農福連携に関する基礎知識の他、パネルディスカッションも行われ、農業側・福祉側の双方から意見が挙がりました。



農福連携現地セミナーの様子

4. 今後について

緑肥導入による効果が確認されたため、今後、栽培講習会や現地検討会の場で生産者と情報共有を行うことで緑肥技術の普及を図ります。

また、農福連携の取組を今後も推進することで、鴨川地域が一体となった産地振興となるよう関係機関と連携しながら取り組んでいきます。



ドローンを用いたサツマイモの草勢評価 ～空撮画像から得られる情報～

千葉県農林総合研究センター 最重点プロジェクト研究室
主任上席研究員 高野 幸成

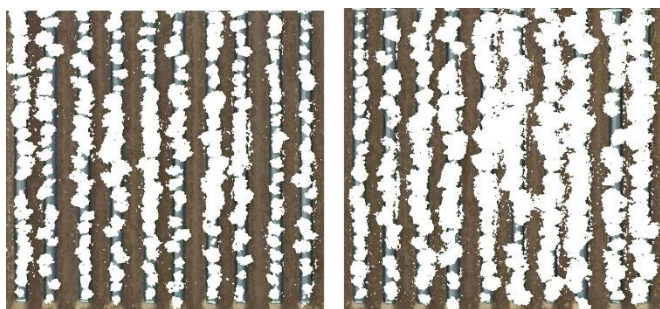
ドローンに搭載したマルチスペクトルカメラの空撮データを用いると、サツマイモの生育初期から収穫期に至るまで、植被率や植生指数といった指標をもとに生育状態を数値化し、草勢評価ができます。

1. はじめに

千葉県のサツマイモ産地では、ほ場によって、いもの貯蔵性に差があることや、食味にばらつきのあることが問題となっています。サツマイモの貯蔵性や食味は、地上部の草勢と関連があるとされていますが、具体的な関係性については不明な点が多い状況です。そこで、当研究室では、その関係性を解明するとともに、ドローンに搭載したカメラの空撮画像からサツマイモの草勢を数値化し、貯蔵性や食味を推定する技術開発を進めています。空撮画像から得られる情報には、いくつかありますが、ここではサツマイモの草勢評価に向く植被率と植生指数について紹介します。

2. ドローンによる空撮方法

空撮には、人の目に見えない近赤外光の波長域も撮影できるマルチスペクトルカメラを用います。そのカメラをドローンに搭載し、自動操縦アプリによって、飛行ルートや撮影枚数を決定し、自動運転で運航し、空撮を行います。



N0kg/10a区 植被率：38% N10kg/10a区 植被率：56%

図1 空撮画像による植被率

(注1) 品種「ベニアズマ」、植付け：令和元年6月4日
空撮：7月10日

(注2) サツマイモ地上部は白色

3. 植被率

植被率とは、地表面が植物体でどのくらい覆われているかを表すものです。空撮画像からは、植物体のみを抽出することが可能で、それをもとに

植被率が算出できます。サツマイモの初期生育の良否を判断できます(図1)。

4. 植生指数

植生指数とは、光の反射特性を生かした指標で、植物体の量や活力を表すものです。空撮画像からは、光の波長域ごとに反射率が抽出できます。光は植物の株全体に届き、その量や状態によって反射率も異なってくるため、群落全体の生育の良否が判断できます。サツマイモは生育中期に植被率が100%近くなるため、それ以降の草勢評価に向きます。なお、植生指数には使用する波長域や計算式によって様々ありますが、サツマイモの草勢評価には、緑色域と近赤外域のデータから算出したGNDVIという指数が適することが明らかになっています(図2)。

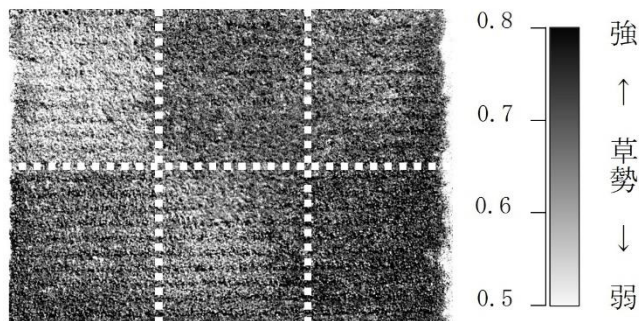


図2 空撮画像による被生指数(GNDVI9)

(注1) 品種・施肥量の異なるほ場

(注2) 使用波長域：緑色域(Green)、近赤外域(NIR)

計 算 式：(NIR-Green)/(NIR+Green)

(注3) 破線は、ほ場の境を表す

5. おわりに

ドローンを用いることで、地上部の生育状態をほ場レベルで広範囲に数値化することが可能です。今後は、地上部の草勢と貯蔵性や食味との関係性を解明した上で、空撮画像から貯蔵性や食味を推定する技術開発を目指します。



ハウス春どりホウレンソウの優良品種の選定

千葉県農林総合研究センター 野菜研究室
研究員 大里 俊一郎

春どりホウレンソウ品種を対象に第70回千葉県野菜品種審査会を開催しました。苗立が良好でコンパクトな草姿である「ミノタウロス」(住化農業資材)、「天下布武」(小林種苗)、「ダイヤ交配エクストリーム」(トキタ種苗)をはじめとした7品種を選定しました。

1. はじめに

千葉県のホウレンソウは、令和3年産の産出額が60億円と全国第5位であり、東葛飾地域など都市近郊を中心に栽培されています。ホウレンソウの品種に求められる特性は、低温伸張性や晩抽性、在圃性等ですが、各特性の重要度は作型ごとに異なっています。春どり栽培では、発芽の安定性や収穫・調製作業が容易な草姿であることに加え、適度な低温伸長性を持ちつつも在圃性に優れることが求められます。そこで、12月播種のパイプハウスによる春どり栽培における優良品種の選定を目的として、千葉県野菜品種審査会を開催しました。

2. 栽培の概要

審査会には種苗会社から22品種が出品されました。栽培を間口5.4m、奥行き50mのパイプハウスで行い、10a当たりの施肥分量は窒素、リン酸、加里をそれぞれ12.8kgとしました。令和4年12月27日にベッド幅120cm、条間15cm、株間4cm、6条でシートテープを用いて1粒ずつ播種しました(無マルチ栽培)。

栽培期間中の平均気温は平年より高めに推移し、特に収穫直前の3月上旬は平年を大きく上回る気温となりました。そのため、生育の早い品種は出荷規格の草丈32cmを超え、一部は葉焼けの発生も見られました。

3. 審査結果

審査会は令和5年3月10日に開催され、19名の審査員で立毛及び収穫物の審査を行いました。その結果、「ミノタウロス」(住化農業資材)、「天下布武」(小林種苗)、「ダイヤ交配エクストリーム」(トキタ種苗)、「グリーンアップ」(武蔵野種苗園)、「シューター」(カネコ種苗)、「雷電13」(ナント種苗)及び「ライトアップ」(武蔵野種苗園)の7品種が入賞しました(表1)。入賞品種はいずれもほ場での苗立率が8割以上で良好だったことに加え、他の出品品種と比較して葉長が短くコンパクトな草姿であり、葉色は市場性の高い濃緑である等、ハウス春どり栽培への適性が高いと考えられました。特に1位の「ミノタウロス」は葉数が多くボリューム感があり、葉は伸びすぎることなく、出品品種の中では収量性も優れていました(写真1)。



写真1 1位の「ミノタウロス」の収穫物

4. おわりに

今回選定した品種は、いずれも形状や揃いの良さに優れています。これらが産地に導入され、生産の安定と拡大につながることを期待しています。

表1 入賞品種の審査得点及び収穫物調査の結果

順位	品種名	会社名	得点(各100点、合計200点)			葉数 (枚/株)	最大葉長 (cm)	1株重 (g/株)	葉色 (SPAD)
			立毛	収穫物	合計				
1	ミノタウロス	住化農業資材	81.9	85.8	167.7	14.5	30.7	41.4	66.9
2	天下布武	小林種苗	83.3	83.5	166.8	13.0	31.5	40.3	66.0
3	ダイヤ交配エクストリーム	トキタ種苗	82.2	81.5	163.7	11.4	32.7	32.3	69.6
4	グリーンアップ	武蔵野種苗園	80.5	82.4	162.9	12.8	31.3	39.2	64.7
5	シューター	カネコ種苗	78.3	83.2	161.5	13.1	29.7	34.8	65.9
6	雷電13	ナント種苗	80.8	79.7	160.5	12.2	28.8	36.8	68.6
7	ライトアップ	武蔵野種苗園	80.1	79.4	159.5	12.3	31.6	40.0	69.3

注1) 審査日及び調査日: 令和5年3月10日

注2) 各区6株調査、1株重は子葉2枚、下葉2枚除去後の測定値

第72回関東東海花の展覧会の開催

関東東海花の展覧会は、千葉県を含む関東東海1都11県の生産者が育てた自慢の切花や鉢花など約2,000点が集まる、日本で最大規模の伝統ある花の展覧会です。千葉県からは、約200点が出品予定です。ぜひ御来場ください。

【主催】第72回関東東海花の展覧会

構成団体：関東東海1都11県及び全国花き関連6団体

【会期】令和6年1月26日（金）～28日（日）

（一般公開・入場無料）

公開時間：

1月26日（金）13:00～18:00（最終入場 17:30）

1月27日（土）10:00～18:00（最終入場 17:30）

1月28日（日）10:00～16:00（最終入場 15:30）※

※出品物即売会は最終日の13時～16時のみ



会場の様子（第71回）

【会場】サンシャインシティ文化会館

2階 展示ホールD

（東京都豊島区東池袋3-1-4）

【整理券】1月28日の即売会の入場には整理券が必要となります。整理券は当日の午前9時から配布します。

【内容】花き品評会、フラワーデザインコンテスト、花の装飾展示、園芸教室（フラワーアレンジメント教室等）、出品物即売会 など

（問い合わせ先）

千葉県農林水産部 生産振興課

園芸振興室 TEL：043-223-2871

房総ジビエフェア2024を開催します！

千葉県では、野生鳥獣対策の一環として、県内で捕獲され、県内の食肉処理加工施設で適切に処理・加工されたイノシシやシカの肉を「房総ジビエ」と銘打ち、その消費拡大を図っています。そこでこの度、そのおいしさを多くの皆様に味わっていただき、更なる房総ジビエの消費拡大を図るため、「房総ジビエフェア2024」を開催します。

フェア参加店舗では、昨年10月に開催された「第6回房総ジビエコンテスト 加工食品部門」や、今月16日に開催される同「スペシャリティ部門」で、千葉県知事賞や千葉県農林水産部長賞などを受賞した作品など、多彩な房総ジビエ料理や加工食品が提供・販売されます。また期間中、参加店舗で房総ジビエ料理や商品を1,000円以上注文・購入した方の中から抽選で100名様に、県産品等が当たるプレゼント企画も実施します。これを機会に、ぜひフェアに参加され、房総ジビエを御堪能ください。

開催期間：令和6年1月22日（月）～2月29日（木）まで

※店舗により料理や商品の提供・販売期間は異なります。

「第6回房総ジビエコンテスト 加工食品部門」受賞作品



千葉県知事賞

「房総食彩Pizza～ragu di cinghiale～」
ピッツェリアボジターノ（成田市）



千葉県農林水産部長賞

「溪谷ジビエのキーマカレーパン」
サトモノ屋（市原市）

参加店舗の詳細等については、下記URL又は二次元コードから「房総ジビエ特設サイト」にアクセスし、御覧ください。



URL： <https://bosogibier.com>